

## 創刊 200号のお礼と今後への抱負

本 NRI パブリックマネジメントレビュー（以下、PMR）は、今月号で記念すべき 200 号を迎えた。ここまで約 17 年もの長い間、毎月巻頭言と 2 本ずつの論文を発信し続けられたのは、読者の皆さまのおかげと心から感謝したい。

PMR の第 1 号は 2003 年 8 月であった。ちょうど 2003 年は重症急性呼吸器症候群（SARS）が流行した年であったが、くしくも今年、新型コロナウイルスの感染による肺炎「COVID-19」が世界中で猛威をふるっている。この原稿を書いている 2 月 29 日現在、国内感染者は 239 名（厚労省報道発表資料による）に達し、さまざまな悪影響を社会や経済に及ぼしている。感染拡大を遅らせるべく、北海道では緊急事態宣言が出されて外出を控えるように呼びかけているし、安倍首相も 3 月 2 日からの小中高一斉休校を要請した。精力的に患者対応を行う医療関係者や政府関係者をはじめ、さまざまな方の献身的な努力があることを改めて認識し敬意を表したいし、関係者の努力が実を結んでなるべく早期に終息することを信じたい。

この 17 年の間にさまざまな側面から社会は変化してきたが、その最たる例はデジタルテクノロジーの進化であろう。通信技術や人工知能（AI）の進化はすさまじく、第 5 世代移動通信システム（5G）でバラ色の未来社会が語られることもあれば、AI が人々の雇用を奪うかもしれないとの危機感がおられることもある。最近ではデジタルトランスフォーメーション（DX）への対応が企業経営や地域経営において不可欠だと叫ばれている。個人が SNS 等を通じて不特定多数に情報発信することも当たり前になり、大手メディアの情報よりもアクセス数や注目を集めることも珍しいことではなくなってきた。

ただ、これだけ情報があふれているのに、いやむしろ情報があふれているからこそ、何が事実なのかがわかりにくくなってきている。何でもネットで検索できる半面、ネットにはうその情報や怪しい情報もたくさん載っているし、たとえ正しい情報であろうとも検索エンジンのアルゴリズムに気に入られない情報はほぼ人の目に触れることはない。また、人間の認知バイアスによって受容されやすい情報の偏りもある。最近のベストセラーであるハンス・ロスリング他著『FACTFULNESS（ファクトフルネス）』によれば、人間は誰しも物事のポジティブな面よりネガティブな面に注目しやすく、そのネガティブ本能によって「世界はどんどん悪くなっている」と感じがちだという。

情報産業に身を置くプロフェッショナルとして仕事をしている NRI のコンサルタントらが提供する論文誌として、今後も PMR は事実をきちんと踏まえたくうえで、読者の皆さまに少しでも役立つ問題提起や解決策の提案を心がけていきたいし、信頼される媒体であり続けるよう改めて気を引き締めたい。

株式会社 野村総合研究所  
コンサルティング事業本部  
パートナー  
三崎 富査雄

NRI パブリック  
マネジメントレビュー  
Public  
Management  
Review

Vol.200  
March 2020